

地球環境を守る活動を応援しています。

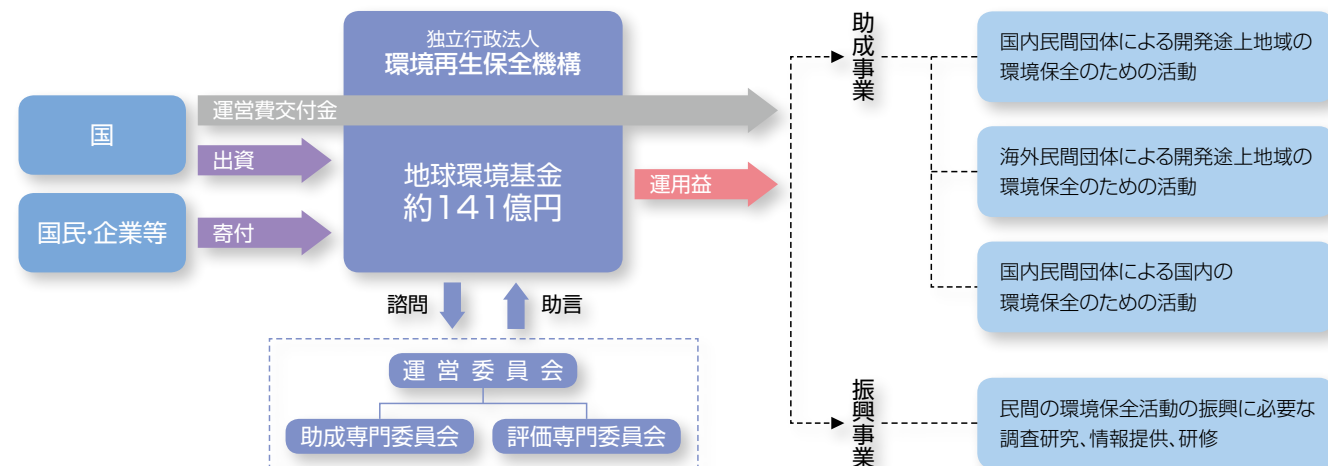


ききんレポート2014

私たち地球環境基金は、環境NGO・NPOなど民間団体の活動を資金面でサポートするとともに、環境保全活動を担う人材や団体を育てる活動を行っています。

●地球環境基金の仕組み

地球環境基金は、国からの出資金と民間からの寄付金によって基金を設け、その運用益と国からの運営費交付金を用いて、日本国内外の民間団体(NGO・NPO)が行う環境保全活動に支援を行っています。

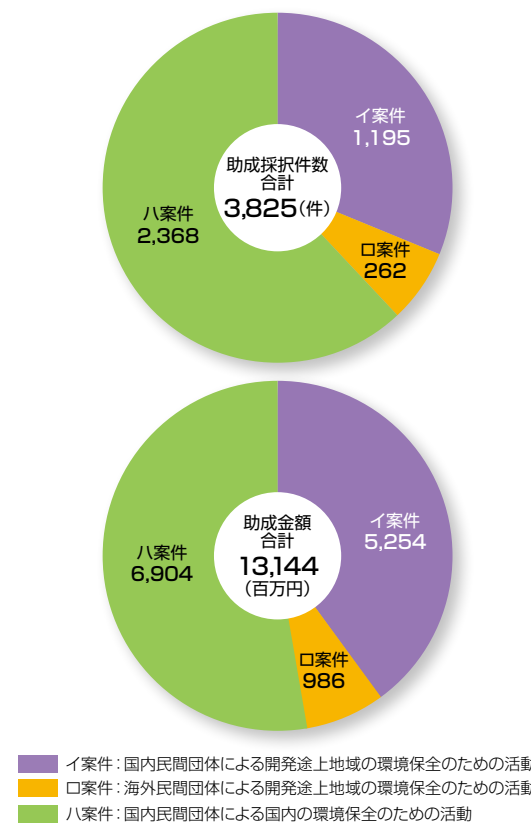


●地球環境基金のあゆみ

- 1992 地球サミット開催
- 1993 地球環境基金創設
- 1997 市民などへの意識啓発を目的とした「地球環境市民大学校」を発足
- 1998 助成採択件数累計1,000件となる
- 2003 助成採択件数累計2,000件となる
地球環境基金創設10周年
- 2004 地球環境基金が独立行政法人環境再生保全機構に移管
- 2008 助成採択件数累計3,000件突破
- 2009 「助成団体活動報告会」の新設
- 2011 「本de寄付」「スマイル・エコ・プログラム」開始
- 2013 地球環境基金創設20周年
- 2014 助成採択件数累計4,000件突破

●20年間の実績

地球環境基金は1993年の創設以来、20年間で3,825件、約131億円の助成を行いました。



みんなの地球のために、
たくさんの方が、
かかわる、つながる、ひろがる。



2014.09①



独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金部

いのちを育む 地球を守ろう。

地球に生きるいのちを未来へ手渡していくために、
頑張っている仲間がいます。
このパンフレットでは、そんな仲間がどこで、どのような取り組みを
行っているのかをご紹介します。
この地球と地球に生きるいのちを守る仲間のために、
身近な活動に加わる、あるいは寄付をして支えるなど、
皆さまのご支援をお願いします。

CONTENTS

【国内での活動事例】

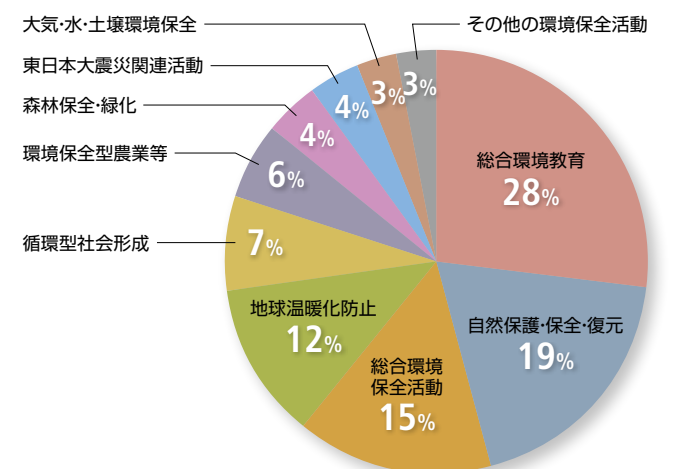
- Report 01 特定非営利活動法人あきた菜の花ネットワーク 食料・環境・農業をテーマに地域を活性化! 4
- Report 02 うちエコ!ごはん 「家庭からのエコ」を分かりやすく伝えます 5
- Report 03 一般社団法人葛西臨海・環境教育フォーラム 感じれば、公園はもっと面白い。葛西臨海たんけん隊へGO! 6
- Report 04 公益社団法人生態系トラスト協会 絶滅危惧種ヤイロチョウの保護・研修センターが完成! 7
- Report 05 特定非営利活動法人野外教育学修センター魚沼伝習館 地域資源の利活用で…元気に新たな村づくり 8
- Report 06 特定非営利活動法人森のライフスタイル研究所 目指せ! 300年後の世界自然遺産 9
- Report 07 特定非営利活動法人スペースふう 目指すは山梨発エコイベント認証制度! 10
- Report 08 特定非営利活動法人環境保全米ネットワーク みやぎ発! 生きものがにぎわう安全・安心な米 11

【海外での活動事例】

- Report 09 Cordillera Green Network Inc. フィリピン山岳民族、自然と伝統文化を再発見! 12
- Report 10 香港観鳥会 神話の鳥に導かれて東シナ海の生態系を復元 13
- Report 11 特定非営利活動法人日本下水文化研究会 トイレだけじゃない。人間らしい生活環境を! 14
- Report 12 特定非営利活動法人APLA コーヒー生産だけに頼らない持続可能な地域づくりを! 15

地球を守る仲間への支援

地球環境基金は、2014年度、197件・6億4,534万円を交付決定しました。
助成対象の活動分野は以下の通りです。



※地球環境基金が2013年度に助成を行った中から12団体の活動概要をご紹介します。
その他の団体についてはホームページをご覧ください。
<http://www.erca.go.jp/jfge/subsidy/organization/report/h25/>

食料・環境・農業をテーマに 地域を活性化！



一面に広がる菜の花と残雪の鳥海山とのコラボレーションが
来場者に大きな感動を与える「鳥海高原菜の花まつり」

秋田県内で開催される環境イベントに出展し、菜の花を利用した「環境保全・資源循環・再生利用」の重要性を伝える活動を行っています。秋田県立大学の学生と共に地域の環境関連の取り組みを学習・調査し、各地域の小学生に教えるとともに、大学生自身の実践的知識の習得を目指しています。毎年5月下旬～6月上旬に秋田県由利本荘市で「鳥海高原菜の花まつり」を開催。

80,000㎡
1,600リットル

2013年の菜の花畑の面積と搾油できたナタネ油の量です。年々、菜の花畑の面積も広がり第5回は約12,000人が来場しました。

特定非営利活動法人
あきた菜の花ネットワーク
青少年によるエコタウン事業実践のための
環境教育プログラムの開発

総合環境教育



所在地 〒015-0824 秋田県由利本荘市古雪町3
(株)HOLIDAY2階
電話 0184-44-8625
FAX 0184-44-8625
ホームページ <http://www.akita-nanohana.com/>



特定非営利活動法人あきた菜の花ネットワーク
鈴木秀雄 専務理事

菜の花から地域を元気に！



幼稚園のイベントでは、親子でエコな工作にチャレンジ。子どもたちにエコを教えてくれるヒーローと一緒に、「楽しかったよ！」



東京都夢の島熱帯植物館の協力の下、自分たちの出したゴミの行方を知るイベントを開催



鎌田結花
地球環境基金課

活動の成果をきちんと数字で出しているのはスゴイ！一人暮らしの学生やOL向けの取り組みもあると、うれしいです。

ココに期待！

私たちが暮らしていく上で、家庭の中で取り組みやすいエコなポイントを10箇条にし、CO₂の削減を行うことを「うちエコ!ごはんアクション」と名付けました。そして、その具体的なやり方をイラストいっぱい的小冊子や親子向けのイベント、インターネット放送などでお伝えし、実際にやっていただいた結果をきちんと数値にして、フィードバックしています。

61,448kg
CO₂/年

イラストたっぷりの小冊子「うちエコ!ごはんアクション」を配布し、実施して下さった方のアンケートに基づいて算出した「この活動で削減できた二酸化炭素」の量です。

うちエコ! ごはん

「うちエコ!ごはんアクション2013」推進活動
一親子で取り組むCO₂削減へのステップ社会編

総合環境教育



所在地 〒171-0043 東京都豊島区要町1-28-14
電話 090-9131-3324
FAX 03-3973-5480
ホームページ <http://www.u-ecogohan.com/>

「家庭からのエコ」を
きっかけに
地球も含めた「命」を
大切にする世の中に！



うちエコ! ごはん
安井レイコ 代表

「家庭からのエコ」を
分かりやすく伝えます



活動内容を多くの方に分かりやすく伝えるために、
インターネット生放送「うちエコ!ごはんチャンネル」を実施





一般社団法人葛西臨海・環境教育フォーラム
宮嶋隆行 事務局長・理事

誰もが楽しめる。
感覚を駆使して自然を楽しむ
ユニバーサルプログラムを目指して

葛西臨海たんけん隊へGOー！

さまざまな感覚を駆使することで、いつも見ていたはずの物事をあらためて「感じて」いただくプログラムです。障がいの有無にかかわらず、どなたにでも楽しんでいただけることを目指しています。ホームグラウンドである葛西臨海公園・葛西臨海水族園以外にも、植物館や水族館、動物園などの集客施設でのモデルプログラムづくりを行っています。

260名 / 3年

3年間で260名(うち障がい者36名)にご参加いただきました。ホームグラウンドである葛西臨海公園・葛西臨海水族園をはじめ、筑波実験植物園など全6施設での実施が実現しました。

一般社団法人
葛西臨海・環境教育フォーラム
葛西臨海たんけん隊特別プログラム
「感じる公園ワークショップ」

総合環境教育



所在地 〒164-0001 東京都中野区中野2-3-13
CD研究所内
電話 03-3229-1041
FAX 03-3229-1044
ホームページ
<http://www.kasairinkai.com/tankentai/index.html>



本物のマグロに触りながら、エラやヒレの機能とその形状となった理由などを理解する。晴眼者は目隠しをして体験



どのような障がいがあっても参加できるプログラムづくりを目指している



ココに期待!
常盤由佳子
地球環境基金課
ここで実施しているプログラムは大きな広がりを見せています。“新しい当たり前”になることを願っています。



木の肌を触り、匂いを嗅ぎ、中の音を聞く。
見るだけではない、さまざまな手法で木を感じよう!



ヤイロチョウ(八色鳥)は5月ごろに四万十川流域の森に飛来する希少な夏鳥。高知県では民話になるほど親しまれているが、その生態は現在も謎に包まれている



ネイチャーセンターには、樹齢600年の大栗の根株やジオラマの他、子どもたちが体を使ってヤイロチョウの森の生態系の仕組みを実感・学習できる展示も



地域の生態系や文化的な景観を学ぶエコツアーや、森と水辺のエコスクールなどを実施



ココに期待!
北山恵子
地球環境基金課
ヤイロチョウって、とってもきれー! この取り組みを県内だけではなく日本中の人に知ってほしい。頑張ってください。

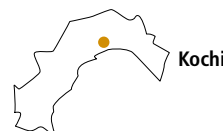
今年はヤイロチョウが「高知県の鳥」に指定されて50年。幻の鳥と呼ばれ、国や県の絶滅危惧種にも指定されていますが、保護対策が遅れていました。私たちは一口オーナー募金を呼びかけ、ナショナルトラスト手法で生息地の森を取得し、生態系豊かな森づくりに取り組んでいます。7月には保護と研修の拠点「四万十ヤイロチョウの森ネイチャーセンター」がオープンしました。

1,000ha
10ペア以上

ネイチャーセンターを拠点に森の整備を進め、1,000haの自然林の再生・10ペア以上のヤイロチョウ繁殖を成功させることを目標にしています。

公益社団法人生態系トラスト協会
四国内でも生物多様性の最も高い地域の一つである四万十川流域の生物多様性を保全する活動

自然保護・保全・復元



所在地 〒781-0270 高知県高知市長浜4964-11
電話 088-841-5400
FAX 088-841-5400
ホームページ <http://www.d.pikara.ne.jp/ecotrust/>



絶滅危惧種ヤイロチョウの
保護・研修センターが完成!

霧が結晶して森のしずくとなるように
生態系を守る活動を広げたい



公益社団法人生態系トラスト協会
中村滝男 会長

地域資源の活用で：
元気に新たな村づくり

Report

05

自然は地域の大切な財産
守り育てることで地域への
愛着心を育てよう



特定非営利活動法人野外教育学修センター魚沼伝習館
坂本恭一 理事長



地域住民や活性化に関心のある社会人による共有林の整備。
整備後は、子どもたちの自然体験や環境教育の自然観察路として活用される

未利用化している地域資源（休耕田、耕作放棄地、荒廃した山林）の環境・資源量調査を、地域住民や地域の活性化に関心のある若者らと行います。これらを新たに利活用することで経済基盤を構築する方法を検討し、改修・活用を進めます。同時に、活動を通じて担い手・後継者の育成を図り、持続可能なコミュニティと環境保全の仕組みをつくれます。

1,000㎡ → 20,124㎡
延べ77人 → 延べ200人

昨年度は、チェンソー、刈り払い機などを使った担い手の研修でしたが、2014年度は延べ200人程度で、20,124㎡の山林を整備します。

特定非営利活動法人
野外教育学修センター魚沼伝習館
地域資源の利活用による自然環境の維持と
持続可能な仕組みの形成と構築

自然保護・保全・復元



所在地 〒949-7319 新潟県南魚沼市市野江丙66-1
電話 025-793-7320
FAX 025-793-7321
ホームページ
<http://www.uonuma-denshukan.com/>



50年以上放置された杉林。すでに広葉樹も成長した森の中で背丈近い下草を刈り、不整木の除間伐作業を行う



地域資源調査の一環として行った鳥類観察と調査



圓井 悟
地球環境基金課

地域の子どものに向けたプログラムが充実していますね。次世代の人材育成という点から大いに注目しています。

ココに期待!



ブナの原生林の林縁部から幼樹の掘り採りを行う



掘り採りされたブナの幼樹たち。これを50cm間隔で丁寧に植え付けていく



長田 恵梨子
地球環境基金課

とてもフレンドリーなリーダーで、活動仲間や植林する地元の人たちからも信頼されており、楽しい活動です。

ココに期待!

活動サイトは長野県木島平村「カヤの平高原牧場」の未利用放牧地。豊かな自然生態系の復元を目的として、本来の植生を回復させてブナが優占する森林環境を復元するために、実生の幼樹の掘り採りと移植活動を行っています。自然保護や生物多様性の保全活動に関心のある首都圏からのボランティアを広く巻き込みながら、地域住民との協働で活動を進めているのが特徴です。

10,000本
0.5ha/394名

2013年度の活動成果で、移植本数と再生面積、参加したボランティアの人数です。

特定非営利活動法人
森のライフスタイル研究所

市民と行政などが連携・協力しながら行う
未利用放牧地のブナの森への復元活動

自然保護・保全・復元



所在地 〒396-0025 長野県伊那市荒井22番地
通り町第一ビルB1F
電話 050-3708-0023
FAX 026-403-2334
ホームページ <http://www.slow.gr.jp/>



元気に育ってくれることを祈りながら、実生のブナの幼樹を移植

ブナの成長は
とても遅い。
だからこそ、
ロマンがある！



特定非営利活動法人森のライフスタイル研究所
竹垣英信 代表理事・所長



目指せ！300年後の
世界自然遺産

目指すは山梨発 エコイベント認証制度！



特定非営利活動法人スペースふう
永井寛子 理事長

ゴミを捨てることはカンニング
ゴミを出さないことは
もっとカンニング！



ハーフタイムにはリユース食器やゴミの分別回収をアピールするために、
エコキッズが横断幕を掲げてピッチを一周

イベント開催後に大量発生するゴミ。しかし、主催者も出店者も、そして参加者も誰一人としてそんなシーンを望んでいません。どうしたら、快適にゴミを減らせるか？リユース食器のレンタル事業と、J1ヴァンフォーレ甲府のホームスタジアム「山梨中銀スタジアム」でのエコスタジアムプロジェクトなどの経験を生かし、取り組み始めたのがエコイベント認証制度の開発です。

411.2kg
10,073人

2014年5月17日、ホームスタジアムで開催された柏レイソルとの試合後に出されたゴミの量。驚くほど少ないのですが、これも2004年から継続して取り組んでいる成果です。

特定非営利活動法人スペースふう
環境と未来世代に優しい「エコイベント認証制度」
開発のための調査研究事業

循環型社会形成



Yamanashi

所在地 〒400-0503 山梨県南巨摩郡富士川町
天神中条177番地
電話 0556-22-1150
FAX 0556-22-1862
ホームページ <http://www.spacefuu.net/>



スタジアムの周囲にはリユース食器とゴミを分別回収するエコステーションを設置。スペースふうのスタッフと大学生や地域のボランティアが対応している



地元の「甲州富士川まつり」では中高生のボランティアもエコ活動に参加



崎枝京子
地球環境基金課

スタッフの中心メンバーが女性
だけあって、生活に密着したパ
ワーを感じます。ぜひ全国に向け
て活動の輪を広げてください。

ココに期待！



生きもの10種類アンケート調査をはじめ、カエルやクモを数え、アカトンボの羽化殻の採取調査を開始。田んぼの健康度を診断



除草剤に頼らず、二酸化炭素削減に役立ち、お米にも喜ばれる動力除草機の実演と残草調査

ココに期待！



小田龍太郎
地球環境基金課

3.11の衝撃を乗り越えて活動
している団体だけに、何として
も頑張っしてほしい！心から応援
しています。

環境保全米とは、環境に負担をかけないよう、農薬や化学肥料を従来の半分以上に減らし、消費者・生産者の健康も考慮して大切に育てるお米です。私たちは、この生産活動を推進する農家と市民とのネットワークとして1998年に発足し、JAグループなどと提携して運動の中核を担ってきました。環境保全米の認証の他、生きもの調査などの活動を展開しています。

26,000ha
40%

宮城県内の環境保全米運動は全県的な県民運動に発展し、環境保全米の作付割合は県内水田作付面積の40%を超え、約26,000ha（山手線内側面積の約4割）に達しています。

特定非営利活動法人
環境保全米ネットワーク
環境保全米認証による地域環境評価システムづくり

環境保全型農業など



Miyagi

所在地 〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉1-16-3
JAビル5F
電話 022-261-7348
FAX 022-261-7488
ホームページ <http://www.epfnetwork.org/okome/>



和食の基本、ごはん。ごはんのふるさと・田んぼを大切に。
お米を育てる農家を大切に。スポーツイベントなどで広く宣伝を行う

元気な農家と
市民のいのちを支え、
生きものがにぎわう健康な田んぼ



特定非営利活動法人環境保全米ネットワーク
小金澤孝昭 理事長

みやぎ発！生きものがにぎわう
安全・安心な米

教育の機会に恵まれない先住民族に
新しい息吹とアイデンティティーの
再発見を



Cordillera Green Network Inc.
反町眞理子 代表

1,200人
20²人×3年間

環境教育研修会に参加する教職員20人が学校などで指導する児童・生徒数は20倍の400人。このプログラムを3年間継続すると、1,200人が環境保全と伝統文化を学べます。

Cordillera Green Network Inc.

フィリピン・ルソン島北部山岳地方マウンテン州における教職員を対象とした環境教育指導者養成事業

総合環境教育



Philippines

所在地 25 J. Felipe St, Gibraltar, Baguio City, Philippines
電話 074-423-0839
ホームページ <http://www.cordigreen.jimdo.com/>



プロジェクトの集大成として、高校生たちが環境保全をテーマにした演劇を環境フォーラムで発表。多くの住民が参加することにより、環境保全の意識向上に寄与



環境教育指導者研修会には、日本からアートを指導する専門家を派遣。教員や生徒は地域の特性を生かしたアート作品を制作し、自然との関わりを学んでいる



どこにでもある竹を活用した環境教育プログラム。自然の素材を生かし、伝統文化を楽しみながら学ぶ



本田渉
地球環境基金課

子どもたちへの環境教育で地域全体の意識も変化したと報告されています。このままうまく進めてほしいですね。

ココに期待!



2014年夏、繁殖地の復元を行っている島に、ヒガシシナアジサシ43羽とオオアジサシ3,000羽が繁殖にやって来た。中央下にヒガシシナアジサシのヒナがいる



繁殖期間中に使用された観察・モニタリングのための調査小屋(2014年5月上旬～8月上旬)



羽の色で見分ける。薄い灰色がヒガシシナアジサシで、濃い灰色がオオアジサシ。石の上にいるのはデコイ



中田孝之
地球環境基金課

デコイなどをうまく使って繁殖させており、成功モデルの1つになるのではないかと期待しています。

ココに期待!

絶滅したと思われていたヒガシシナアジサシが、2000年に再発見されました。生息数は推定50羽で、詳しい生態は分かっておらず、中国では「神話の鳥」と呼ばれています。かつてヒガシシナアジサシが繁殖を行っていた東シナ海の無人島(鉄墩島)を整備し、鳥の模型(デコイ)や鳴き声再生装置を置くことでヒガシシナアジサシを誘導し、繁殖地の復元に取り組んでいます。

50羽 → 63羽

2014年、繁殖期前後のヒガシシナアジサシの推定生息数の推移(26%増)。43羽がデコイに誘われて島に降り立ち、20ペアが誕生。13羽の若鳥が無事に巣立ちました。

香港観鳥会

中国東部における海鳥コロニーの復元

自然保護・保全・復元



所在地 7C, V Ga Building, 532 Castle Peak Road, Lai Chi Kok, Kowloon, Hong Kong
電話 852-2377-4387
FAX 852-2314-3687
ホームページ <http://www.hkbws.org.hk>



神話の鳥に導かれて
東シナ海の生態系を復元

神話が実話になりつつあります
目標は、海洋生態系全体の復元!



香港観鳥会
ヴィヴィアン・フー(傅詠芹)
中国プログラムマネージャーアシスタント

Report

09

トイレだけじゃない
人間らしい生活環境を！

Report

11



JADE Bangladesh
アザッド 現地プロジェクトマネージャー

きつとできるよ！
みんなの生活環境を良くすること



スラムの未来、バングラデシュの未来はこの子どもたちの力に託されている。
新しい共同トイレは小学校に隣接し、生徒用のトイレも作られた

バングラデシュ第3の都市クルナ。人口の20%を超える人たちがスラムで生活しています。1つのスラム(Camp 1)で共同トイレを作り直しました。従来は3K(汚い・暗い・臭い)空間でしたが、新しい共同トイレは、衛生機能はもちろん、し尿からバイオガスを取り出して利用可能。さらに、トイレの周辺も人が行き交う快適な生活空間にすることを目指しました。

36の衛生的トイレに改造

し尿はバイオガス反応槽で分解されるので、環境負荷が低減されます。現在、11世帯が台所の燃料としてガスを利用。ガス料金はトイレの清掃維持費に。

特定非営利活動法人
日本下水文化研究会
バングラデシュ・クルナ市内スラム地区における
資源循環利用を意図した衛生改善活動

循環型社会形成



Bangladesh

所在地 〒162-0067 東京都新宿区富久町6-5
NJS 富久ビル別館3階
電話 03-5363-1129
FAX 03-5363-1129
ホームページ
<http://www.jca.apc.org/jade/index.htm>



最初に建て替えたトイレ横の広場はスラムの人々にとって貴重な空間、子どもたちの遊びの場、祭りの場となる。写真はスラムの女性たちによる踊り



通行を遮断していたこれまでのトイレ。建て替えたトイレとともに、スラムの人たちが行き交う通路もできた



草薙智紀
地球環境基金部

これまでも多くの実績を上げており、トイレをつくるだけでなく生活環境も確実に改善させるなど発展していますね。

ココに期待!



「バナナやパイナップルの苗をたくさん植えたのよ」と、誇らしげなコーヒー生産者



住民参加型の水源保全活動を実施。実地作業を通じて知識・技術を得ることができた



瀬上恭平
地球環境基金課

長期的な視点から活動するAPLA。現地とのコミュニケーションもうまく、とても参考になる取り組みだと思います。

ココに期待!

東ティモール・エルメラ県のコffee産地において、アグロフォレストリー(森林農法)の考えに基づいて現地の気候・風土に合った果実などを植樹することで、プランテーション型のコーヒー単一栽培から持続可能な循環型農業への転換を目指しています。また、それによってコーヒー生産者の生活の安定ならびに地域の森林保全・水資源保全を進める取り組みです。

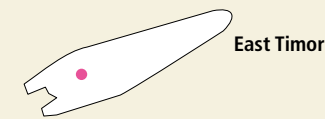
80人

水源保全活動の参加者数。自らが主体となって地域の環境を保全するという意識形成につながりました。他4地域の代表者から「次年度は自分たちも」との意見も出ていました。

特定非営利活動法人APLA

東ティモールのコーヒー産地における「アグロフォレストリー」導入による循環型社会／地域経済の構築

環境保全型農業など



East Timor

所在地 〒169-0072 東京都新宿区大久保2-4-15
サンライズ新宿3F
電話 03-5273-8160
FAX 03-5273-8667
ホームページ <http://www.apla.jp/>



気候・風土に合った作物を選ぶために、専門家を招いて集落内やコーヒー畑で地形や土壌の調査を実施

何よりも
大切にしているのは
そこで暮らす人たちの主体性です



特定非営利活動法人APLA
野川未央 東ティモール担当



コーヒー生産だけに頼らない
持続可能な地域づくりを！